

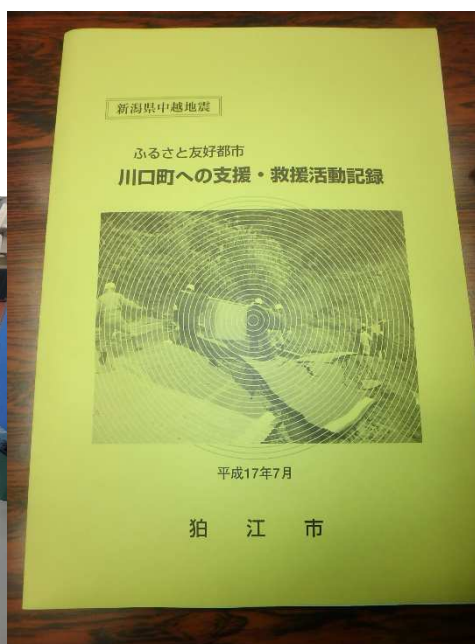
新潟県中越地震の教訓をどう活かすか。講習会のご案内

研修委員長 金井義雄

新潟県中越地震の川口町田麦山地区では、新耐震木造住宅が倒壊・大破していました。建築系最大の【教訓は『在来木造住宅は上下緊結金物が必要』】ということです。

今年の2月28日、中越地震から14年すぎて、ある疑問の解消のために、狛江市役所に向かいました。川口町役場周辺で見た、狛江の名前が付いたテントの林立です。

地震後、新潟県外中越地震と言ってもいい事態の中で、狛江市の存在感は際立っていました。通常は被災自治体→被災県→支援県→支援自治体で支援要請が伝達されます。支援が必要ないかの問い合わせは、逆に辿ってなされます。中間が機能不全に陥ると、被災自治体の窮状は伝わりません。支援自治体の支援したい気持ちも伝わりません。



これだけ、支援しているのだから、資料が残っているのではないかと推理しました。市役所の受付で聞いたら、企画財政部制作室の行政資料室に案内され『新潟県中越地震 ふるさと友好都市 川口町への支援・救援活動記録 平成17年7月 狛江市』という製本された冊子を見せられました。白紙もありますが175ページの力作です。

狛江市は国道17号が北からは、上越線に崩落、南側からは和南津トンネルが崩落して、陸の孤島と言われている中、地震発生から、23時間で川口町役場に到着しています。

【教訓 災害時相互援助協定は結ぶべし】【教訓 普段から、消防団の交流あり】

秀逸なのは『V 支援・救援活動報告』です。p55からp111にわたります。

項目 活動内容 **今後、(狛江)市の防災行政への反映する課題と提言**が書かれています。

『課題と提言』は、一番多くの紙面をさいています。救援にあたった、狛江市職員が自分の市の災害時にどう対応したらいいか、考えながら支援していたことが伺える内容です。マニュアルでなく、考える市役所職員が見られて感激です。

この本は庁舎外持ち出し不可なので、庁舎内のコピー機でコピーしました。コピーからH氏にPDF化してもらいました。近くの中央図書館にもありますが、狛江市民と隣接した川崎市民・世田谷区民は館外貸出できるので、直接PDF化できます。

川口市も宇都宮市と災害援助協定を結んでいるようですが、普段の結びつきはどうなのでしょう。打算の協定としては、川口市のほうが得なような気がします。川口町と狛江市のような消防団の結びつきはあるのでしょうか？建築士事務所協会川口支部も建築安全課も宇河地区や宇都宮市建築関係と連携をとって、災害援助協定を側面強化しなければいけないのではと思います。

地震被害地では、公務員と工務店は食いつばぐれがないことは、過去の経験からわかっています。殺人的忙しさが襲い掛かります。設計事務所はどちらになるのでしょうか？

川口町の罹災証明の調査は私が最初に行き、人手不足解消に川口支部会員が4名参加して、川口町罹災証明の調査が限界に達しているからと市長室に電話して建築関係の市職員が4名ずつ行っていたという話があります。狛江市の報告書を見たあとに、建築安全課に10ページ以下だと思いが報告書はないの？と問合わせしたがないそうです。それで、私なりに教訓を推測したいと思います。川口町を支援した川口市の記念集会があった時、正確な罹災証明調査のおかげで、3次判定の申し込みが大変少なかったという話がありました。私は川口町最初の3次判定者です。半壊なのに、お手盛した大規模半壊を、同じ町内で別基準はまずいだろうと、大規模半壊にしました。帰りの車で、川口町役場職員より、「ごねたら上がるにならなくてよかったです。その情報は半日で町内中に伝わります。」と言われました。前の判定者にたぶん会っていない川口市職員はマニュアル通りにやったはずです。

【ごねたら下がる】結果になったのだと思います。小千谷市は市民のいいようにしてやれという方針で3割が3次判定になったといます。3割といえローラー作戦ができないので実質最初以上に手間が掛かったと思います。【教訓 ただでさえ公務員の人手が足りない時にごねたら上がることのないようにブレない方針を決める】

新耐震木造住宅も最も古いのは、築38年になろうとしています。新耐震だから新築ですとは言えない年数になっています。旧耐震住宅は38年より古い建物しかないということです。旧耐震木造住宅の耐震診断・耐震補強が減っていくのは当然のことです。旧耐震木造住宅には、農家建築のような、改修に新築コスト以上を払う価値があるもの（技術的に再建築不可）が少数ありますが。

私も中越地震の教訓を伝えるために講習会を開催したいと思います。田麦山の新耐震木造住宅の倒壊・大破例と、そこと同じような金物使用状況がわかれば、川口市周辺でも、他人事ではないと思えるはずです。

平成31年3月吉日

新耐震木造住宅の真実

—安全だと思っけていますか？金物は大工しだいです—
—偏心は設計者の構造尊重意思しだいです—

主催（一社）埼玉県建築士事務所協会川口支部

支部長 齊藤 哲

研修委員長 金井義雄

私が初めて、新耐震木造住宅の倒壊・大破を目撃したのは、『新潟県中越地震』の川口町田麦山です。そこで【金物は必要だ！】と痛切に思いました。（川口町罹災証明調査人）

1981年から2000年までは新耐震木造住宅の時代と言われていますが、2000年以降と比べるとN値法の計算方法がなく、上下緊結金物は義務付けされていませんでした。金物取付はお勧めされていただけで、大工が拒否すれば、それで終わりです。

現在、1991年築のZ金物のない新耐震木造の耐震補強をしています。お客様によれば、大工が親身になって、「住宅金融公庫を使うと金物を使うことになり、工事費が上がるので、公庫は使わないほうが良い」と言ったとのことでした。

今回の講習会は、『木の建築フォーラム』で、昨年、展示発表した【大工は上下緊結金物が嫌いだ】をバージョンアップして、Z金物使用実態と、Z金物の有無により評点はどう変化するか示せたらと思っています。4分割法がなかった時代ですが、偏心については1992年築の、日経ホームビルダー2013年6月号の記事『危ない軸組特集 引抜きと偏心どちらを優先？』を使い、講習したいと思っています。偏心の重要度はいつも同じではないことをお伝えできたらと思っています。ちなみにこの建物は、住宅展示場に行けば、必ずお目にかかれる、住宅メーカー設計施工です。

- 1、日時 : 平成31年4月9日（火）午後6時30分～午後8時30分
- 2、会場 : 川口市立並木公民館 2階講座室1号・2号
- 3、講師 : 金井義雄（なぜ新耐震住宅は倒れたか【日経BP社発行】に関与）
- 4、定員 : 40名
- 5、費用 : 当支部会員無料 当支部会員外500円（当日受付で）

『新耐震木造住宅の真実』申し込み

会社名 :

TEL :

参加者名 :